



—院長のひとり言—

四十肩 五十肩（凍結肩 肩関節周囲炎）について

肩関節は浮遊関節ふゆうかんせつ（あたかも宙に浮いているような自由度の高い関節）で、その一部を痛めると日常生活に大きな影響を与えます。

これは私見なのですが脳に近い部位の疼痛は、しばしば耐え難い疼痛を引き起こします。

例えば、頭痛、眼痛、顔面神経痛、三叉神経痛さんさしんけいつう、歯痛など、肩関節も脳に近い部位なので、とても痛いのです。

さて今回は前回に引き続き四十肩、五十肩の治療についてお話しします。



①急性期 発症から2週間程度

この時期に受診していただければ、まずは消炎鎮痛薬、外用薬の投与（夜間痛があり睡眠障害をきたしている方は眠前に末梢神経性障害治療薬を追加投与することがあります）

あと、温熱治療や超音波治療などの物理療法、疼痛が強い場合はステロイドが入った関節内注射や糖尿病のある方ならヒアルロン酸の関節注射などで、多くは治癒します。

それでも疼痛の改善が得られない場合は、腱板損傷の合併などが疑われるのでMRIなどで診断をつけて加療いたします。



②慢性期～拘縮期

急性期で改善した方は良いのですが、ほとんどの患者さんは「腕が上がらない」「衣服の着脱が困難」「車のシートベルトが痛くてしづらい」「洗髪時に手が頭の後ろに回らなくて洗いがづらい」などの症状が残ったり、また上記のような症状が出現して初めて受診されることが多いです。

すなわち、肩関節の周囲の軟部組織なんぶそしき（筋肉 関節包 腱）の癒着で、肩の可動域が制限されることが原因です。

この段階になると、理学療法士によるリハビリが不可欠となります。